

自らの介護経験をきっかけに 毎日が新鮮な介護現場に飛び込んだ新人スタッフ

異業種転職

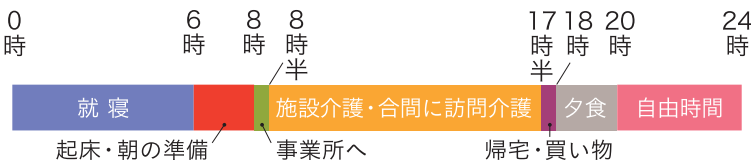
山田直子さん / 55歳

さわやか憩の家春日
小規模多機能型施設の介護スタッフ

キャリア

| | |
|------|---------------------|
| 20歳頃 | 地元（福岡市）の小売業に就職 |
| 30歳頃 | 東京でフリーカメラマン活動を開始 |
| 48歳頃 | 介護をきっかけに福岡へ帰郷 |
| 54歳 | 親のケアマネジャーの紹介で実務者研修を |

ある日の1日



- 自分の介護経験から湧いてきた介護の仕事への興味
- 研修を経て、はじめて飛び込んだ介護の世界の魅力
- 同じことのない新鮮な介護の日々に、これまでの経験を活かしていきたい



福祉の仕事を始める前は何をしていた？

— 東京でフリーのカメラマン

東京で、フリーカメラマンを20年近くしていました。デザイナー、作家のポートレートと、旅行雑誌向けに各地の人や料理、風景を撮影することが多かったです。写真撮影も人と向き合う点で、介護の世界と共通しています。物を撮るにしても、どこを写真で切り取るか。写真を見るであろう誰かとの向き合い方ひとつで、写真も変わります。

7年くらい前に、親のこともあって福岡に戻ってきました。それまで好きなことをさせてもらったので、東京にいた時から、親とは電話で頻繁にやり取りをしていたのですが、体調の変化も感じていました。介護が身近になり、いつしか両親以外の人のために、仕事をしたいと思うようになりました。

— きっかけはケアマネさんの一言から

親の介護でお世話になっているケアマネジャーさんから、介護の職業訓練を教えてくださいました。親のことはもちろん、家族のことも気にかけてくれる方で、介護の仕事に興味があることを伝えたことがきっかけでした。それで、ハローワークを通して、実務者研修を受けることにしました（※実務者研修：資格・技術の習得のための訓練を受けられる求職者支援制度）。

半年ほどの研修で、年齢・経歴も様々な方と一緒に同じ目標に向かって勉強することができました。私と同じく両親、祖父母の介護がきっかけという方もいましたね。同期とは、いまだに連絡をとって情報を交換しています。資格が取れたら、お祝いする約束もしています。

福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 新鮮で共感できる介護の日々に、自分の経験を活かしたら…

説明会で聞いたケアの方針が良かったことと、施設見学の際に見た利用者さんの表情がとても良くて自分の親の介護もお願いしたいと思えたので、ここで働きたいと思いました。

働き始めてまだ3カ月ほどですが、清掃、食事、入浴、送迎、訪問等、いろいろと関わらせてもらっています。小規模多機能の事業所なので、通所・入所・訪問といろいろなケアを経験できることも私としては魅力的です。

正直、仕事をしながら学び続けているところです。周りの仕事ぶりを見て「私が介護の仕事をしてよいものか」と思ったこともありますが、まずはやってみよう、と。楽しさを感じ取れる余裕はまだありませんが、利用者さんが笑顔になられたとき、素直にうれしいです。

あと、たとえ同じ利用者さん・同じスタッフだったとし



ても、同じ日は決してなくて、常に新鮮なんです。それは自分に合っているかな、って。それぞれ個性がある中でやり取りされるそんな世界に、自分も入っていけるように意識しています。これからは、その場で臨機応変に対応していくことが多かったカメラマン時代の経験を活かせるようになりたいな、とも思っています。

介護の仕事以外で、あなたについて教えてください！



旅行先の阿蘇で山田さんが撮影された写真

— 湯船に浸かって楽しむ自分の時間

休日は、買い物、掃除、親の通院の付き添いをして、その他は自分の時間を楽しむようにしています。特に最近はスーパー銭湯。手足を伸ばして、湯船に浸かることが大好きです。カメラマン時代は、全国各地に足を運んでいたの、温泉は楽しみのひとつでした。思い出深いところだと、山形の百目鬼温泉。

— カメラの思い出

カメラについては、学生のとくに写真部に入って、昔からとても身近なものでした。祖母と一緒に住んでいて、何の気なしに撮っていた写真が遺影になりました。その写真には、祖母の持ち物も含めて、いろいろなものが記録として残っていて、改めて写真のすごさに気づいたことを今も覚えています。

取材を
終えて

親の介護から始まり、ケアマネジャー、実務者研修、そして今の職場へとつながっていった山田さん。自らの経験から新しい世界を積極的に広げていかれた姿に、多くの学びがありました。